

## 痔の守り神 ぢおんさん

しゅうざんじゅうんだいごんげん  
秋山自雲大権現

昭和20年8月6日 8時15分・・・

原子爆弾投下を受け、広島市内は壊滅的な被害を受けた。

その中に、「ぢおんさん」の愛称で、民衆から慕われていた痔の神様「自雲大権現」<sup>じゅうんだいごんげん</sup>があった。 その頃・・・

牛田東 蓮照寺住職中川さんが、宇品港へ引揚者の出迎えに松川町あたりの電車通りを通りかかると、なぜか身動きが取れない「金縛り」<sup>お</sup>に遭うたそう。

「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えるとふう〜っと元通りに動けるようになったそうじゃ。

気にはなっとったが、忙しくそのまんまにしていたところ、秋頃<sup>きんや</sup>に金屋町の知人<sup>うらべ</sup>ト部さんからこんな相談を受けた。

『ぢおんさん』が夢枕に立って、『私を掘り出して欲しい』と言うのじゃが、どうしたもんかいのう」

二人は、これも“何かのご縁”と、倒壊した瓦礫の中を探してみた。

そして、中川さんが「金縛り」に遭うたあたりの近く、金屋町<sup>きんや</sup>の瓦礫の中から「ぢおんさん」を見つけ、丁寧に掘り出した。

「ぢおんさん」は江戸時代、金屋町<sup>かなや</sup>にある妙詠寺<sup>みょうえいじ</sup>に祀られておった。

ところが明治の時代、新政府が「神仏分離令」を出し、「神社」と「寺院」を区別し、それまでは一緒に祀られていた「神」と「仏」を切り離すように命じた。

又それとは別に、妙詠寺では宗門の改革が行われ、「ぢおんさん」は妙詠寺の境内では祀る事ができんようになってしまった。しかし、それまで「ぢの護り神」として民衆の信仰を集めてきた「神様」だったので、心ある人々が、妙詠寺のすぐ近くに<sup>ほこら</sup>祠を建てて祀り、守ってきたんじゃ。そして、ここで原爆に遭うてしまった・・・



二人はさっそく、掘り出した「ぢおんさん」を洗い清め、関係者を訪ねた。原爆の被害はそれは大きなもので、祠を立て直す目途もたちそうにない様子じゃった。

蓮照寺の中川さんは「自分の寺で祀らせてもらえないか」と申し出てみた。

「人々の信仰を集めた由緒ある御神体ですから、あなたがこれを大切に『勧請』<sup>かんじょう</sup>してお祀りしたいと言われるなら、お譲りいたしましょう。」

こうして、牛田の蓮照寺にご縁を頂くことになった。

中川さんはさっそく「ぢおんさん」を譲り受け、大八車に積んで牛田へ持ち帰り、蓮照寺で大切にお祀りした。



戦後少し落ち着いた頃、松川町から牛田に移った「ぢおんさん」の話がひろまり、痔の神様

「自雲大権現」<sup>じうんだいごんげん</sup>のご利益を求め、牛田を訪れる参拝者が増えた。

まだ家も少なかった昭和 20 年代。道案内にと、牛田の入り口“二又土手”と、蓮照寺の参道入り口に「道標」<sup>みちしるべ</sup>が建てられた。

さて、「ぢおんさん」と親しみ呼ばれた

「秋山 自雲大権現」<sup>しゅうざん じうんだいごんげん</sup>の生い立ちについて、ここでお話しよう。

姓は「狭間」<sup>はざま</sup>と言ひ、「武蔵」<sup>むさし</sup>の出と言ひ。名は「善兵衛」<sup>ぜんべえ</sup>と言ひ、「摂津の国」

(現・兵庫県)川辺郡小浜村の生まれ。14歳の時に江戸に出て、酒問屋の大店 岡田孫左衛門<sup>おおたな</sup>に奉公し、後にその仕事ぶりを見込まれ、岡田家を継ぎ、名を「岡田孫右衛門」と改める。

孫右衛門は、来る日も来る日も、重い荷物を運んだり、長い時間正座をしたりと仕事に精に出した。また当時は、塩辛い食事や便所などが生活習慣病の一因となり、大人の三人に一人が「痔」で苦しんだという。孫右衛門も 38歳の時に「痔」の病を患ってしまった。

それから 4 年間、孫右衛門は治療に努めるがいつこうに回復せず、ついには出家をし、江戸浅草にある「本性寺」の「題目堂」に 3 年間籠り、病氣平癒の祈願を唱えたが、その甲斐もなく、延享元年（1744 年）9 月 21 日 45 歳で没す。

臨終の際、孫右衛門は自らの戒名を「秋山自雲居士」と名付け、「死後、これを祀ると「痔」の病が治るよう神とも仏ともなり願わくば後世 痔疾痛苦の者来たつて題目を唱えれば我 之を救護し利益を垂れん！」と言い遺した。

※「私は死んだ後、痔の守り神となり、痔の病に苦しむ人がお題目を唱えたならば、私は必ずその人を守護し、病を取り除く！」と言い遺した。

そのご利益は眼を見張るものがあり、墓前に頭を垂れた（かけた）ところ、「痔」の病は完治し、その噂はたちまち広まり、生まれ故郷の「摂津」をはじめ、京都や小田原、秋田など法華宗のお寺を通じ、全国に祀られるようになった。

そのご利益に感謝し、尊びをこめて「秋山自雲尊者」と呼ばれた。

また尾張の徳川侯、京の二条斉信公も「痔」の祈願をし、治ったので「秋山自雲功雄」の尊称（尊い称号）も賜った。



さて、ここは芸州広島城下町。寛政年間（1790 年代）の頃、安藝郡廣島新開金屋町（現・松川町）にある「妙詠寺」の境内にも「秋山自雲大権現」を祀る祠が建立された。この時代、馬に乗る武士にとって痔は痛くて辛い病であり、馬に乗れない事は致命的だったので、その病を治すために祀られたという言い伝えもある。

その頃、風呂に入ることは贅沢だった時代、“おでき”や“ぢ”で苦しんだ人は多かったそう。そこで、広島城下では“おでき”を治す西の「か

さもりさん」（材木町）と、“ぢ”を治す東の「ぢおんさん」が並び、民から慕われとった。

ご利益を頂こうと「ぢおんさん」にお参りした人は赤いお札を頂いて自宅の仏壇や神棚に祀った。そして、病気が治ったお礼に、魚の「エイの絵馬」を奉納し、一生エイを食べなかったと言われとる。7 月 21 日の縁日ともなると、赤い幟を立て、奉納芸能や出店で境内は賜ったそうじゃ。

遠くから泊り込みでお参りに来る人も多かったそう。妙詠寺の境内にある「ぢおんさん」の祠の中には、自然石が祀ってあり「秋山自雲大権現」と刻まれ、堂守もおったそう。お年寄りの信仰や社交の場、また子ども達の遊び場として親しまれていたと言われておる。

時代の遷り変わりや戦後の区画整理で、妙詠寺の敷地は縮小され痔の神様

「ぢおんさん」が最初に祀られていた場所は「松川公園」となった。

その「松川公園」の向かいに、奇しくも「肛門科川堀病院」ができ、その右脇にぽつんと道標が建っておる。道標には「ぢ護神自雲大権現鎮座」と刻まれている。なんとその道標は、戦後牛田に移った「ぢおんさん」をお参りに来る人々の為に、「蓮照寺」の参道入口に建てられたものだったんじゃ。そして、道標の台座部分は、現在蓮照寺の「ぢおんさん」の傍に据えられている。不思議な因縁じゃのう。お参りされた方や入院中の方があげたのだろうか、道標にはいつもお賽銭がそなえてある。また「松川公園」は、お年寄りや子供、サラリーマンの憩いの場となっておる。戦前ここに「ぢおんさん」が祀られ、賑わっていた事を知る人も、今では少なくなってしまったよのう。

戦後 70 年、西の「かさもりさん」 東の「ぢおんさん」共にお寺や祠は原爆により壊滅的被害を受けたが、幸いにも御神体は奇跡的に被害を免れ、場所は移りながらも心ある人に守られてきた。「ぢおんさん」はこうして牛田蓮照寺で、大切に祀られるようになったんじゃ。そして、民間信仰の拠り所として、今でも大切に守り継がれている。

おしまい



## 【解説】

「<sup>どうもり</sup>堂守」・・・お堂を守る人、管理人

「<sup>かんじょう</sup>勘請」・・・神仏の来臨を請い願うこと

神仏の分身・分霊を、他の地に移し祀ること

「<sup>しゅうもんかいかく</sup>宗門改革」・・・宗派の制度や組織の不十分なところを改め変えていくこと。

「<sup>みょうえいじ</sup>妙詠寺」・・・戦前の通称は、東の「ぢおんさん」

寛永 3 年（1626 年）、芸州浅野家広島藩二代目藩主、浅野光晟公の乳母を務めた「好の局（蓮光院春月妙詠大姉）」により、その息女とともに、菩提所として寺領を拝領し創建された。現在は松川町にあり、椿で有名な寺でもある。

「かさもりさん」・・・通称 西の「かさもりさん」

「かさもり明神」とも呼び、現在は千田町「妙法寺」境内に在る。天明年間（1781 年～1789 年）から昭和の時代までは材木町に、昭和 20 年原爆により壊滅し中島町へ、さらに千田町へと移転した。おでき・吹き出物・性病など、「<sup>かさ</sup>瘡」の病気にご利益がある。

「<sup>びつちゅうたかまつさいじょういなりさんどう</sup>道標」側面～備中高松最上稲荷参道～について・・・

この「道標」は、「ぢおんさん」が牛田・蓮照寺で祀られるようになった時に、蓮照寺の入り小口に立てられた物である。当時、蓮照寺には、「最上稲荷」の<sup>ごぶんし</sup>御分祀が祀られていたことから、道標には「備中高松最上稲荷参道」

「ぢ 護神自雲大権現鎮座」の両方が記されていた。

※古老からの言い伝えによりまとめた作品なので、お寺の言い伝えとは相違点がある

制作：牛田の歴史と文化を生かしたまちづくりの会